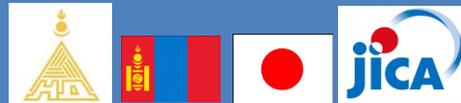


バトホヤグ医療・社会保険庁総務局長、
ゾリグト人事課シニアオフィサーとの協議



JICA 社会保険実施 能力強化プロジェクト ニュースター第3号



2016年10月

★プロジェクトホームページを開設しました★ [HTTP://WWW.JICA.GO.JP/PROJECT/MONGOLIA/014/INDEX.HTML](http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/index.html)

主な内容（次項）

社会保険実施能力強化プロジェクト・ウィークリー・ミーティングの開始

9月6日（火）、医療・社会保険庁内研修室において、第一回ウィークリー・ミーティングが開催され、労働・社会保障省、医療・社会保険庁、ウランバートル市内の各社会保険事務所、JICA プロジェクトメンバーといった関係者が参加しました。



ミーティングの様子

本ウィークリー・ミーティングの目的は、日本の社会保障制度やその制度を運用する実務について、日モンゴルの専門家同士が意見交換を行うことを通じて、お互いに自国の制度や実務の改善につなげることです。

第一回のミーティングでは、ゲレルマー医療・社会保険庁サービス開発課長の挨拶の後、チーフアドバイザーより社会保険実施能力強化プロジェクトの概要について説明を行うとともに、村民が自らお金を出し合っ村の医療と健康づくりに取り組んだ60年前の日本の国民健康保険の成り立ちについて



ゲレルマー課長の挨拶

のビデオや、今後のプロジェクトの活動予定などについても紹介をしました。

バトジャルガル労働・社会保障省シニアオフィサーからは、「省や庁、区や県の社会

保険事務所の各関係者全員が、お互いの活動を情報共有するとともに、JICA プロジェクトメンバーとともに一緒に協力し、成果を上げることが重要だ」「JICA プロジェクトメンバーが提供することを待つのではなく、自分たちも何が必要か積極的にJICA に伝えていき、一緒に高め合っていくことも大変重要」というコメントがありました。また、参加者からは今後開催予定である、日本からの短期専門家によるモンゴルでの研修に積極的に参加したいという感想が寄せられました。



バトジャルガル・シニアオフィサーの挨拶

今後も、毎週火曜日にウィークリー・ミーティングを開催し、社会保険実務の向上のための様々な研修や意見交換などを行っていく予定です。



連載「草原の国の社会保障」第3話

モンゴルにおける社会保障の実情や、本プロジェクトを通して思う事などを随時お伝えいたします。今回は、社会保障の成り立ちと国の役割についてです。（写真：社会主義時代に建設されたアパート群）



2016年草原マラソンへの参加

9月4日、モンゴルの大草原を舞台にマラソン大会が開催され、プロジェクト専門家が参加しました。（写真：マラソンスタートの様子）

草原の国の社会保障（第3話）

皆さま、こんにちは。今回は、社会保険の成り立ちと国の役割について説明します。

社会保障の主要な機能である社会保険は、国民みんなが加入することで、リスク分散を図ることに特徴があります。特定の人たちだけで保険集団を作ろうとすると、所得が高い人、健康な人だけで組織されることとなります。保険事故になることが少なく、しかも保険料は安くなるため、恵まれた方々のみが保険集団に入れます。その一方で、こうした恵まれた集団に入れない人たちの保険料は高騰するか、そもそも保険集団に入れない方々が生じてしまうことになってしまいます。本来、リスクの高い人たちを保障するために作る保険ですが、本末転倒な状況になってしまいます。こうした状況を防ぐため、国民みんなが強制的に加入する社会保険を作ろうという考え方が生まれました。

ところで、この社会保険を提供する者は誰が一番望ましいでしょうか。前述のとおり、保険集団の組織化を自由にしてしまうと、所得が高い人だけ、健康な人だけ、若い人だけ、といった「仲間」うちだけで集まることになりかねません。こうしたことを防ぐことできるのは国だけです。国が加入者である国民一人ひとりと契約し、契約に基づいて支払われる保険料をしっかりと管理し、そして、加入者の万が一のときに加入者を第一に考えて保障する。こうした役割が社会保険を運営する国に求められます。その際に重要となるのが国民から信頼(SINRAI)されることです。

残念ながら、日本では、国民から不信感の目で見られる事件が起きています。加入者からの保険料の納付記録をしっかりと管理していないのはいか、加入者の個人情報に細心の注意を払っていないのではないかと、といった事件に対し、改めて加入者である国民から信頼(SINRAI)を得るべ



↑モンゴルの労災年金受給者へのインタビューの様子。

く、私たちは努力していかな

ければなりません。加入者数 6,713 万人、年金受給権者数 3,991 万人、そして、毎年約 35 兆円の保険料を集め、54.2 兆円の年金給付を行う日本の年金に対する国民の信頼(SINRAI)に改めて応えていくことが必要です。

チーフアドバイザー 山下 護

2016 草原マラソンに参加しました！



↑完走後の記念撮影。

9月4日（日）、ウランバートル市郊外で開催された「2016 草原マラソン」に山下チーフアドバイザー、高梨専門家、菊池専門家が

プロジェクトの宣伝を行うべく参加しました。日本人、モンゴル人合計で 1000 名を超す参加者が集まり、両国の親交をさらに深める素晴らしい大会となりました。

<菊池専門家の感想> 当日朝の気温は約 7℃と寒かったのですが、走る内に体が温まり、参加者同士の交流を楽しみながら、草原のコース 3km を走り切りました！

<高梨専門家の感想> 広大な草原の中、爽やかな風を感じながら 21km のコースを完走することが出来ました。我々のプロジェクトも今回のマラソンのように最後まで走りぬくことが出来るよう頑張りたいと思います。



↑ハーフマラソンに参加した高梨専門家の見事な走りです。

アルタントヤ・プロジェクト アシスタントから一言



皆さんこんにちは。モンゴルの国民一人一人の生活と密接に関係している社会保障、社会保険の意義をお伝えするという大切な活動を皆様と協力して行ってまいります。よろしくお願いいたします！

プロジェクト・オフィス住所・連絡先

住所：Khuulichid Street, Chingeltei District, Ulaanbaatar 15160, モンゴル社会保険庁内 6階 602号室

電話(FAX)番号：(+976)-11-325125

ニュースレターのバックナンバーはこちらから

<http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/newsletter/index.html>